

「待月」 たいげつ

たかしは小学四年生です。
夏休みに、先生から、

（三次の自まんでできる景色を見つけよう。）という宿題が出ました。

たかしは、（三次の自まんかあ・・・鵜飼いや霧の海・・・いろいろあるけどぼくだけの自まんの景色をしようかいいいなあ。）と思いました。

けれども、しょうかいしたい景色はなかなか見つからず、夏休みも後一週間となってきました。困っているたかしを見て、おじいちゃんが声をかけました。

たかしから宿題の話を聞き、

「たかしだけの自まんのけしきか・・・。三次の山や川もいいんじゃないか？」
と言うと、たかしは、言い返しました。

「そんなの三次じゃなくてもどこだってあるし、どこもみんな同じだよ。」

おじいさんは、しばらく考えていましたが、
「そうだ。いいところを教えてあげよう。」

と言いました。たかしは、大よろこびです。

「本当！やったあ！じゃあ、カメラを持って行ってばっちり写して来よう。」

「その場所をみて、ただカメラにのこすだけじゃなあ・・・。」
おじいさんは、たかしを見て、自信ありげに笑いました。
その顔を見て、たかしは、
「そんなすごい場所なの！」
と、ますます喜びました。

二人は、さっそく出発しました。おじいさんは、車を走らせながら、

「たかし、いい天気だな。ほら、川がきれいだよ。」

と話かけましたが、たかしは、これからどんなすごい景色がみられるのかとわくわくしていて、何も答えませんでした。

車が着いたところは、奥田元宋・小由女美術館でした。

「ねえ、美術館は、友達が何人もしようかいするって言っていたんだよ・・・。」
たかしは、小さな声で、つぶやきました。そんなたかしにかまわず、おじいさんはどんどん美術館の中に入っていききました。



たかしは、奥田元宋さんの絵をみながら、
（すごい絵だな。もしかしてすごいってこの絵のことかな？
でも三次の景色じゃないよなあ。）と思いました。

絵を見終わってホールに出た時、たかしは、展示してある一枚の絵がふと目にとまりました。

「この絵、きれいだなあ。山も川もこの絵みたいだときれいだよね。」

たかしが、そう言うと、おじいさんは、

「この絵は『待月』^{たいげつ}っていうんだ。三次の画家、奥田元宋さんがふるさとの自然の美しさをこの絵に描いたんだ。おじいちゃんはこの絵が大好きなんだ。」

「ふるさとって、この絵は三次のけしきなの？」

たかしは思わず、聞きました。おじいさんは、にっこり笑って、

「さあ、たかしに話したいいい場所に行こうか。」
と、言いました。

おじいさんは、たかしを車に乗せ、さつき通った川ぞいの長土手で車を止めました。

「ここが、たかしにみせたい場所だよ。」

「この川？ここは、さつき車で通った所じゃないか。」

がっかりしながら、車からおりたたかしは、はっとしました。

いつも見ていたはずの川の景色が、さつき美術館でみた『待月』の絵と重なって見えたのです。

おじいさんは、そっと言いました。

『待月』は、この山と川をかけた絵だよ。

奥田元宋さんが美しいと思ってかいたけしきを六十年たった今もこんなに近くで見ることができなんて、すばらしいだろう。」

山の緑。青い空。川の水は、おだやかに流れています。たかしは、空につながる山の向こうから、今にも月が顔を出すのではないかと思いました。一枚の絵のような景色の中で水鳥だけが、音もなくすべるように泳いでいます。おじいさんは、たかしに言いました。

「どうだい、この景色は？」

「うん、山も川も・・・。」

たかしは、そう言いかけて、カメラを手に持ったまま、シャッターをおさず『待月』の景色をじっと見つめていました。

